

【第一問】－25 点－

問 1（10 点）

討議資料「財務会計の概念フレームワーク」第 2 章 第 9 項、第 10 項、第 16 項及び第 17 項からの出題である。一般的な制約とされる内的整合性と比較可能性の位置づけと、内的整合性の理解を問う問題である。

問 2（15 点）

「固定資産の減損に係る会計基準」から出題している。(1)は「固定資産の減損に係る会計基準」ニ 5 より、割引率が何を反映しているのかを問う空所補充問題である。(2)は、「固定資産の減損に係る会計基準」ニ 2(1)と「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」より、減損の判定基準の意義を問う問題である。(3)は「固定資産の減損に係る会計基準」ニ 3 より、減損の認識が、費用の期間配分のあり方をかえていることを確認する問題である。

(2)及び(3)は、基準に書かれていることを理解していれば、論理的に解答できる内容となっている。

【第二問】－25 点－

問 1（13 点）

企業会計基準第 8 号「ストック・オプション等に関する会計基準」から出題している。(1)は、第 4 項及び第 5 項についての空所補充問題であり、ストック・オプションに関する権利確定以前の会計処理について正確に理解しているかを問うものである。(2)及び(3)は、ストック・オプションに関する会計処理の理由を問うものである。いずれの問題も「ストック・オプション等に関する会計基準」に関する知識を問う基本的な内容となっている。

問 2（12 点）

繰延資産に関する問題である。(1)は、株式交付費に関する国際的な会計基準と日本の会計基準の違いについて、その理由を問う問題である。(2)は、開業費について、その会計処理と理由を問う問題である。いずれも会計基準に定められている会計処理について、その背後にある考えを理解しているかについて問うものである。

【第三問】－50 点－

本問は、会社法及び会社計算規則の基本的な理解度を広範囲に問う問題である。資料を正確かつ横断的に読み取って、貸借対照表及び損益計算書を適切に作成できるかを問うている。

- (1) 現金及び預金について、基本的な組み替え事項に関する理解を問う。
- (2) 金銭債権について、「金融商品に関する会計基準」における債権区分の考え方と貸倒引当金の会計処理に関する理解を問う。

- (3) 有価証券について、「金融商品に関する会計基準」における有価証券の評価方法等に関する理解を問う。
- (4) 自己株式について、「自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準」における自己株式の取得の会計処理に関する理解を問う。
- (5) 棚卸資産について、「棚卸資産の評価に関する会計基準」における棚卸資産の評価基準及び評価方法に関する理解を問う。
- (6) 有形固定資産について、減価償却計算、「固定資産の減損に係る会計基準」「資産除去債務に関する会計基準」等に関する理解を問う。
- (7) 無形固定資産について、ソフトウェアの会計処理に関する理解を問う。
- (8) 借入金について、貸借対照表における表示と区分に関する理解を問う。
- (9) 従業員賞与について、賞与引当金の会計処理に関する理解を問う。
- (10) 退職給付会計について、「退職給付に関する会計基準」に関する理解を問う。
- (11) 剰余金の処分に関する理解を問う。
- (12) 株式報酬制度について、「ストック・オプション等に関する会計基準」に関する理解を問う。
- (13) 諸税金について、納付税額等の会計処理に関する理解を問う。
- (14) 税効果会計について、「税効果会計に係る会計基準」における繰延税金資産及び繰延税金負債等の会計処理と表示に関する理解を問う。